

特別展 (1階展示室)
生誕120年

木山捷平展

2024年6月9日(日)
→9月1日(日)

現在の岡山県笠岡市に生まれた木山捷平は、今年、生誕120年を迎えます。
これを記念して、特別展「生誕120年 木山捷平展」を開催いたします。

吉備路文学館は、昭和61年秋に開館いたしました。

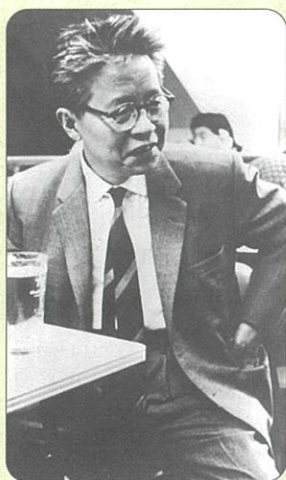
開館当初より、ご遺族から、捷平ゆかりの品々を多数ご寄贈いただき、以来、折りに触れ、それらの品々を展示してまいりました。

本展示では、捷平直筆の原稿や色紙、初版本、愛用していた身の回りの品々など、開館当初よりご寄贈いただいた品々を中心に展示いたします。

生誕120年という節目の年に、あらためて木山捷平の魅力に触れていただけたら幸いです。



捷平愛用の硯箱、水滴、硯、墨、小筆。



木山捷平 略歴

(詩人・小説家／明治37(1904)年～昭和43(1968)年／現・岡山県笠岡市生)

矢掛中学時代から文学を志したが、父の反対により、姫路師範学校二部を経て、教師として2年間勤務。大正14年、上京、東洋大学に入学。赤松月船主宰の詩誌「朝」の同人となり、草野心平らと知り合うが、病を得て郷里と兵庫で療養。昭和4年、再度上京。同年、第一詩集『野』を刊行。6年、第二詩集を刊行。同年、結婚。結婚後は小説に転じ、8年、太宰 治らと「海豹」を創刊。次いで、檀 一雄らの「鶴」に参加、太宰らと「青い花」を創刊(まもなく亀井勝一郎らの「日本浪漫派」に合流)。14年、第一創作集『抑制の日』を刊行。20年、仕事先の新京(長春)で現地召集、終戦後一年間の難民生活をして帰国。31年発表の「耳学問」以後、次第にブームを呼び、38年、『大陸の細道』で芸術選奨文部大臣賞を受賞した。



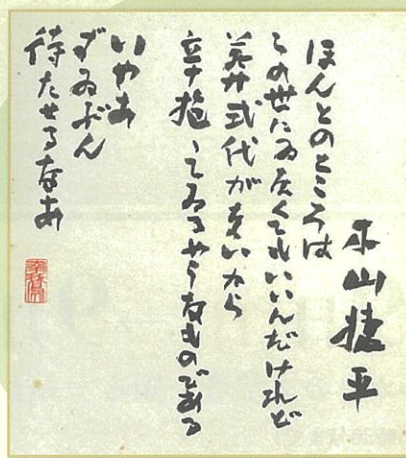
捷平愛用の懐中時計。
もとは父・静太が愛用していたもの。



第一詩集『野』
(抒情詩社／昭和4年)



第一創作集『抑制の日』
(赤塚書房／昭和14年)



木山捷平筆／色紙

ほんとのところは
この世にゐなくてもいいんだけれど
葬式代がないから
辛抱してゐるやうなものである
いやあ
するぶん
待たせるなあ

木山捷平

北泉庭のご案内



睡蓮

吉備路文学館には、小さな日本庭園があります。
館内からゆっくりながめたり、庭をめぐってみたり。

春夏秋冬

四季それぞれの彩りをお楽しみいただけます。

〈交通のご案内〉JRでお越しの方：岡山駅より徒歩15分、タクシー3分

バスでお越しの方：岡電バス(妙善寺・三野公園)行、または宇野バス(美作方面)行で「南方交番前」下車徒歩3分

お車でお越しの方：文学館前の道路は午前東行・午後西行の一方通行です。

